

1、 本園の教育目標

幼児の心身共に健やかな成長発達を願って、幼児の主体的活動としての遊びを十分に確保し、一人ひとりが遊びを通して興味関心を持ち、試したり考えたりする過程を大切に教育を目指している。また幼児期にふさわしい生活を展開されるよう適切な環境を用意し、教師との信頼関係に支えられた生活、友達と充分関わって展開する生活がなされるように配慮した教育を目指している。

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・ 昨年度同様告知なしの避難訓練を実施し教職員園児ともに避難の手順を理解し有事の際にも進んで避難でき自分自身を守る意識を高めていけるようにする。保護者とも連携し一緒に避難訓練を行うことで子ども達の見守りに繋げたい。
- ・ 出来る限り研修や講演会に進んで参加することで新任・若手・中堅教諭を育成するとともに教諭全員が自己研鑽に励む。また和やかで温かい人間関係を構築する。
- ・ 園内研修では、ビデオ撮影をし、終了後担任もクラスの個々の姿から理解と課題を得ることができるので、忌憚のない考えや意見を出し合うことで互いに学びあい、翌日からの指導に繋げていく。
- ・ 、遊びこめる場の設定や廃材の提供を工夫する。また子どもの自然発想を大切に考え、今この遊びに必要なものを瞬時に感じ取り提供できるよう遊びの展開を見守る。
- ・ 遊びの発想が展開できるような室内環境を構成し、遊び込める場の設定を考え、廃材、自然物、小石、砂などあらゆる素材を使うことが出来るよう工夫する遊び、考える遊びを展開することにより、子どもの主体的な遊びを十分に展開できるようにする。
- ・ 安全管理・衛生管理・怪我の対応・体調不良児の早期発見に努め、子どもも保護者も安心できる環境づくりおよび配慮を再度確認していく。
- ・ 保護者アンケートを引き続き実施し、子どもの育ちの把握およびさまざまなニーズを確認することで本園としての今後のビジョンを検討していく。
- ・ 園庭解放の取り組みその他の子育て支援を充実させていく上で必要な手立てを考えていく。
- ・ 特別支援教育のあり方を常に教職員と考えあい、支援の必要な子どもを園全体で共通理解し、個に応じた支援を考えていく。
- ・ カリキュラムの一部変更に伴う流れや変化に対する教職員の共通理解が得られたのでいっそう保護者の安心を得るよう対応を考えていく。

3、 評価項目の達成および取り組み状況 平成29年度

- 1 -

評価項目	取り組み状況
実際に即した 避難訓練	認定こども園になったので、乳児クラスも参加して実施した。避難訓練実施表を作成の上記録し、その都度振り返りも行なった。防災教育では、火事・地震のビデオを見た後、自園での避難手順を子ども

	<p>もたちと確かめ合った。保護者参加では、避難だけでなく保護者は、消火器の使用手順を消防士より教わって体験したことで防災意識が高まった。一方、不審者侵入を想定しての避難訓練も実施したがたくさんの課題が残ったので次年度は改善策を協議したい。</p>
<p>新任、若手教諭の育成並びに自己研鑽の実態と保育への活用状況</p>	<p>講習会・研修会には機会を逃さず全員が順次必ず参加し、学んだことを園全体で共有し、お互いの研鑽に繋げた。また他園の見学をし、良い面を自園に活かさないかを新任、若手教諭の考えも伝え合う機会を持ち実践につなげるなど学びあった。</p>
<p>園内研修の変革による教諭個々の振り返りと変容</p>	<p>従来は各クラスの保育を観察し保育技術の向上に繋げていったが、方法を変えテーマを決めて忌憚のない意見を付箋に表示しファシリテーション方式でまとめて行った。グループで検証を行なうことでポイントを抑えて自己の振り返りが出来るようになってきた。今始まったばかりなので次年度は、5領域を踏まえて研修のテーマを考え有効的に研鑽を重ねていきたい。</p>
<p>歳児に応じたプロジェクト型保育の取り組み状況</p>	<p>プロジェクト研究に参加し学んでいる教諭から具体的な情報を得たり、他園を見学し、実践現場から得た内容をたたき台にして園内研で意見交換を活発に行なうことでプロジェクト型保育の理解を深めてきた。子どものつぶやきや子ども同士の何気ない会話を基点とし教諭が先導するのではなく方向性を提案したり、きっかけを提供するなど子ども達が自主的に活動を展開できるよう取り組んでいる。が、まだまだ未熟で教諭個々がより感性を磨き豊かな発想を提供できるよう努力していきたい。</p>
<p>室内環境構成の見通しと主体的な遊びの展開状況</p>	<p>各教諭が工夫して遊びの教材を置くことで新しい遊びに挑んでいる姿や廃材を使って自分なりに考えて玩具作りに没頭する姿が見られ、その場で欲しい素材、用具を子どもから求めてくるなど今まで以上に主体的な姿が多く見られた。教諭自身も良い刺激を受け、創意工夫する姿もあったので更に子どもと共に創意工夫し、コーナーづくりを充実させる努力が必要である。</p>
<p>安全管理・衛生管理</p>	<p>保育室、園庭、園舎全ての設備全体の安全点検・バスの乗り入れの際の安全確保・子ども一人ひとりの登園時および保育中の視診を担当だけでなく園長、フリー教員による二重、三重のチェックを毎日</p>
	<p>実施することにより、安心して過ごせる環境を保障し体調不良などの早期発見に努めた。感染症などの危険を未然に把握し発生状況をその都度家庭へしらせて注意を促すなど園と家庭が連携して安心できる環境を提供できた。次年度はマニュアルを作成し的確に周知できるようにしたい。</p>
<p>保護者ニーズの把握</p>	<p>年度末に無記名によるアンケートを実施し、家庭での子どもの様子や園の取り組みへの達成度を把握できた。園への要望については、</p>

	<p>可能な事項については改善できることを伝え、信頼関係の構築をしていく。自由記述にはわが子の成長を喜び感謝の言葉がかなり多くこのことは、教職員のやる気につながった。</p>
子育て支援の充実	<p>園庭開放では参加した子ども達が次回を楽しみに感じる活動を考え実施してきたが更に年間計画を立案することで事により充実させることにつなげていきたい。</p> <p>働くお母さんが増えて長時間の預かり児が増加傾向にあるので一人ひとりの子ども達が園にいることが楽しいと思う活動を考えて過ごしてきた。次年度はもっと人数が増えると考えられるので専任の教諭を配置し時間外保育の充実を図りたい。</p>
特別支援教育の充実	<p>支援が必要な子どもに対し、引き続き支援教諭を配置した。どの場面で支援が必要か把握し、担任と連携を取りながらその子に応じた支援を行い、困り感が減るよう努めた。また集団生活の重要性から過度の支援をしないよう配慮した。</p> <p>次年度は更に家庭との連携を密にして支援の充実を図っていきたい。</p>
認定こども園初年度の振り返り	<p>幼児クラス・乳児クラス双方で安全管理・衛生管理の重要性に対する意識を高め、処置方法も、特に幼児クラスの教職員間で共通理解を促した。(たとえば発熱時の対応、嘔吐や下痢に対する処置方法、当該児以外の対応など)</p>

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

有事の際に備え作成した緊急時の引渡しカードを1度も使うことなく終えたことは幸いな1年だった。**安全・衛生管理**においても園内で発生したけが(大小を問わず)の対応、嘔吐、腸炎による下痢の対処も園全体が共通理解をし、速やかに行なえた。

危機管理においては不審者の対応については再度教職員間において細心の話し合い、検討が必要と認識する。

園内研修の変革・プロジェクト型保育の取り組み状況・室内環境構成の見通しと主体的な遊びの展開状況については、園全体の認識が高まり前年度と比べ理解も深まり、良い方向に向かっている。

子育て支援の充実では、個々の母親の家庭での悩み、子育てでの迷いなどを気軽に話せる場を設けることでストレス解消の機会に出来たことは母親支援になったように思える。

預かり保育では、園に居ることが心から楽しい!明日が楽しみ!と思える活動を計画できる預かり専任教員を配置することを考えている。園庭開放の取り組みでは、近年来課題としていた見通しを持って計画を立てて取り組む方向に向けている。

特別支援教育の充実では従来行なってきた支援教員の配置、年間指導計画の作成、個別指導計画の作成をし園全体で支援児の理解と支援のあり方等を協議していきたい。

保護者ニーズの把握においてはアンケートの見直しをし、園での取り組みや子どもたちの家庭での姿を双方がより詳しく理解できるようにし保護者のニーズに応じていくことも大切と考える。

認定こども園初年度の振り返りを基点に日々の振り返りから子どもたちの健やかな育ちを確保できるように考えていく。

5、今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
避難訓練の充実	年間計画は見通しを持って立案し、いかなる状況下でも迅速、適切に子ども達を誘導出来るようにしていく。特に不審者侵入時における避難誘導方法を協議し本園独自のマニュアルを作成していく。
園内研修の活性化	改善したことを踏まえリーダー制で毎回進めていきあらゆる分野で5領域を踏まえた研修を深めていくことで質の高い教育に繋げていく。
プロジェクト型保育の充実	前年度の取り組みを振り返ること・各教員の今の取り組みや悩みなどを話し合うことでヒントを得、プロジェクト保育の方法・進め方の理解に繋げていく。
安全管理・衛生管理の徹底に向けて	引き続き室内外の遊具の点検・子どもたちの動きの把握を密にすること・特にバスの出入り時には緊張感を持って対応することで事故防止に重きを置く。衛生管理では前年度同様感染症への対応・園内での下痢、嘔吐時の対応をしていく。
保護者ニーズの反映	保護者アンケートの内容を見直し、子どもの家庭での様子をより詳しく記載していただくことで個々の子どもの発達の後押しに反映していく。
子育て支援の充実	園庭開放のあり方を系統立てて考え、実践することで未就園の親子が充実感や期待感がもてるようにする。預かり保育では専任教諭を配置し、長時間園で過ごす子ども達が居心地が良い、明日も楽しみと思える立案を考えていく。
特別支援教育の理解と充実	園全体で困り感のある子を把握し一人一人に適した支援が出来るよう対応方法を考えていく。支援教諭が必要な子どもには今までと同様配置すると共に研修にも積極的に参加しきめこまやかな対応を考える。個人記録や年間計画も作成する。
認定こども園初年度の振り返りを通して	0歳児から5歳児の就園で当初は新制度の理解の面で幼児クラスの教員の戸惑いや1号児・2,3号児の把握においても理解のバラツキが見られた。歳児ごとの子どもの育ちの姿を目の当たりにし、子ども園の利点が見えて来た。乳児クラスの年間保育計画・幼児クラスの年間指導計画を幼保教諭全員が共有し本園の理念とする0歳から6歳の豊かな育ちに必要な環境を考えていく。

6、学校関係者評価

①避難訓練は子どもたちもどのようなことが起きたのかを理解して実施できていて評価できる。

自然災害の危機感を持つとともに、不審者侵入時の訓練も実施していただいて子どもたちに教えていって欲しい。

園内研修の実施、講習会や研修会に全員の先生が参加されていてとても評価でき、来年度も継続していただきたい。

プロジェクト型保育はとても評価できる。子どもたちからの意見や考えを大切にしていることも子どもを通じて伝わった。家でも子どもと調べたりすることもあり親子で学べた。

保育室に行くと今どういう遊びをしたりどのようなことを調べたり学んだりしているのかすぐにわかる環境だったので評価できる。

衛生管理は感染症等の素早い対応や体調の変化等にすぐに気付いていただき、とても評価できる。

安全管理については登降園時の事故等は聞いたこともなく複数の先生方で見ただいて評価できるが、いくら門が施錠されていても侵入できそうな門なのでその時の対応などを保護者に伝えていただくだけで安心できると思う。

危機管理については災害等発生した場合、共働きが増えているので連絡網だけでは対応はできないと思う。緊急時の一斉メール等の対応をしていただきたい。

普段の保育の様子をホームページで見れるので、保護者はありがたい。

年度末のアンケートは可能な限り対応していただいていると思うが、その中での保護者の要望等いくつか抜粋し、園の対応（回答）をお便りにしてもいいのではないかと思う。

園庭開放は子どもが楽しむことはもちろん、母親同士の交流にもつながるので今後も継続していただきたい。働く親が増えることにより預かり保育の子どもも増えたので子どもも楽しんでいる。これは預ける親にとっては何よりの安心材料だと思う。今後も預かり保育が楽しい！と子どもが思う保育を希望する。

こども園になり、保護者としては行事や普段の保育等が変わってしまうのでは・・・と不安があったが今までとは何も変わらず安心した。だからといって乳児クラスと幼児クラスが完全に別ということもなく、交流の場もあり、子どもたちにとっては心の勉強になっていると思う。

②ペットボトルや新聞紙、トイレットペーパーの芯等、身近にあるものを使っての創作活動は子どもの創意工夫する力や発想力を伸ばし、家庭で再度チャレンジすることもあったので、とてもよかったと思う。

無記名での保護者アンケートは園への要望や感謝の気持ちを伝えることができるいいツールであるが、一方、筆跡から無記名であっても個人が特定されるのではないかと心配で、率直な意見が書きにくいとの声も耳にした。

延長保育中のテレビ鑑賞の時間がなくなったが、先生の読み聞かせや年長児による読み聞かせ等を実施していただいたおかげで子どもは十分楽しく過ごせていた。みんなの前で本を読んだときはとても得意げで嬉しそうだった。

③この取り組み状況や目標、計画、評価などを読ませていただいて、いかに先生方が努力されているかがよくわかった。

今の保育を十分に取り入れ、子どもたちのために努力を積み重ねられていることに感謝します。日頃から先生方が研修などいろいろな取り組みをされていることは保護者にあまり伝わっていないと気がする。(先生方ががんばっているのにがんばりをわからず文句を言う人が多い。)

日常子どもたちがどんな様子で生活をしているか、どんな遊びや歌や運動をしているか、子どもたちと先生方とのかかわり方、考えなど知りたい人が多いと思う。おたよりや何かの方法で園の様子がわかればと思う(ホームページでも載せてくださっていますが)。こども園になって先生と親とのかかわりが減ったという声も多い。先生と保護者のコミュニケーションがもう少しあれば保護者は園にもっと協力的なのではないかと感じる。在園児の印象が良ければ外部の印象もよくなると思う。

④子どもたちにとってもたくさんのお話を任せていただき見守っていただけた。子どもたちは自分の頭で考えること、工夫をすること、人生を有意義にする創造力を育むことができた。家庭でもやりたいこと、つくりたいものなどのゴールを目指し、どうすればできるか考えて、工作や手紙を書いたり集中して没頭する姿を垣間見ることが多々あった。

先生方のご尽力、日々子どもたち、私たちに向き合ってくださいの誠実なご対応にとっても良い雰囲気の中、保育、教務の向上に努めてくださっている様子がよくわかった。

わが子が登園を嫌がり苦悩した時期があったが、先生方からお声掛けを頂き、子育ての悩みにも傾聴していただけて本当に救われる思いがした。担任の先生からいただいたお手紙を息子は今も宝物入れにしまって時々私に読んでと言ってきます。

幼児を預ける保護者として毎日の登降園の際やバスの乗り入れの際に目にする先生方の真剣な目に日々感謝している。

家庭でも不意に「今下が揺れて地震が起きたらどうする？」と尋ねると幼稚園で習った約束などを一生懸命に説明してくれる。子どもたちは金田幼稚園でより人生を豊かにする術を身につけています。

⑤こども園に移行することにより少し不安がありましたが、先生方の変わらない教育方針やこども園ならではの乳児との交流、新しい園舎の充実した設備や行き届いた衛星管理など、より良い幼稚園生活が過ごせていると思う。

プロジェクト型保育を実施されているが、はじめはどんな保育だろうと思ったが年長でカナヘビのげんくん、ザリガニのミラクルちゃんの飼育を通して、名前決めから飼育方法まで、子ども自身で考え、みんなで話し合い、どうするか決めて、実際にやってみるという経験を経て、自主性が芽生えて、発想が豊かになったと思う。

また、子ども同士も共通の話題にもなり、協力しあったことで友情も深まったと思う。

残念ながら亡くなってしまったげんくんの最期まで子どもたちに見せてくれ、悲しいながらも生き物の大切さなど素晴らしい学びの経験をさせていただけた。

避難訓練だが、予告なしに実施されており、地震や火事の時の身の守り方は子ども自身、身についており、自宅で地震が起きた際も自然にできており、感心した。

しかし、実際に地震が起きた際、園庭に避難してから家族に引渡しまでが漠然としており、不安を感じる。電話が通じない場合、帰宅難民になったときにお迎えに時間がかかる場合など想定できるので、災害時のマニュアルなどあれば落ち着いて対応できるかと思う。

先生同士の雰囲気もとてもよく、幼稚園の先生になりたい園児が多いのも先生方の楽しそうな姿を見てだと思ふ。

金田幼稚園の教育目標は先生皆さんが把握し、一丸となって教育目標達成のため、幼児の成長のため、取り組まれているので大変評価できると思う。

⑥避難訓練に乳児クラスも参加して実施はとてもよかったと思う。また、私自身子どもに火事・地震の怖さを伝えているが、園でビデオを見て避難の手順、怖さなどを確かめあってくれて嬉しく思う。

また、先生方も研修会や園内研修などもっとより良い園を目指されていること、子どもたちが自主的に活動し、展開できるよう取り組んでおられるのに感服した。

安全・衛生管理についても園からの発生状況を教えていただけるので、家庭でも危機感をもって対応できている。

年度末に実施されているアンケートの答えなどをしっかり回答していただいて、園からの誠意を感じる。

入園前に参加させていただいた園庭開放は親子ともども楽しみにしていた。

支援が必要な子も皆一緒に楽しい豊かな園生活を送れるように努力され、実施されていることに感謝している。

今子どもは「明日行ったら園で何しよっかな?」「とても楽しい!」と話してくれる。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる。
